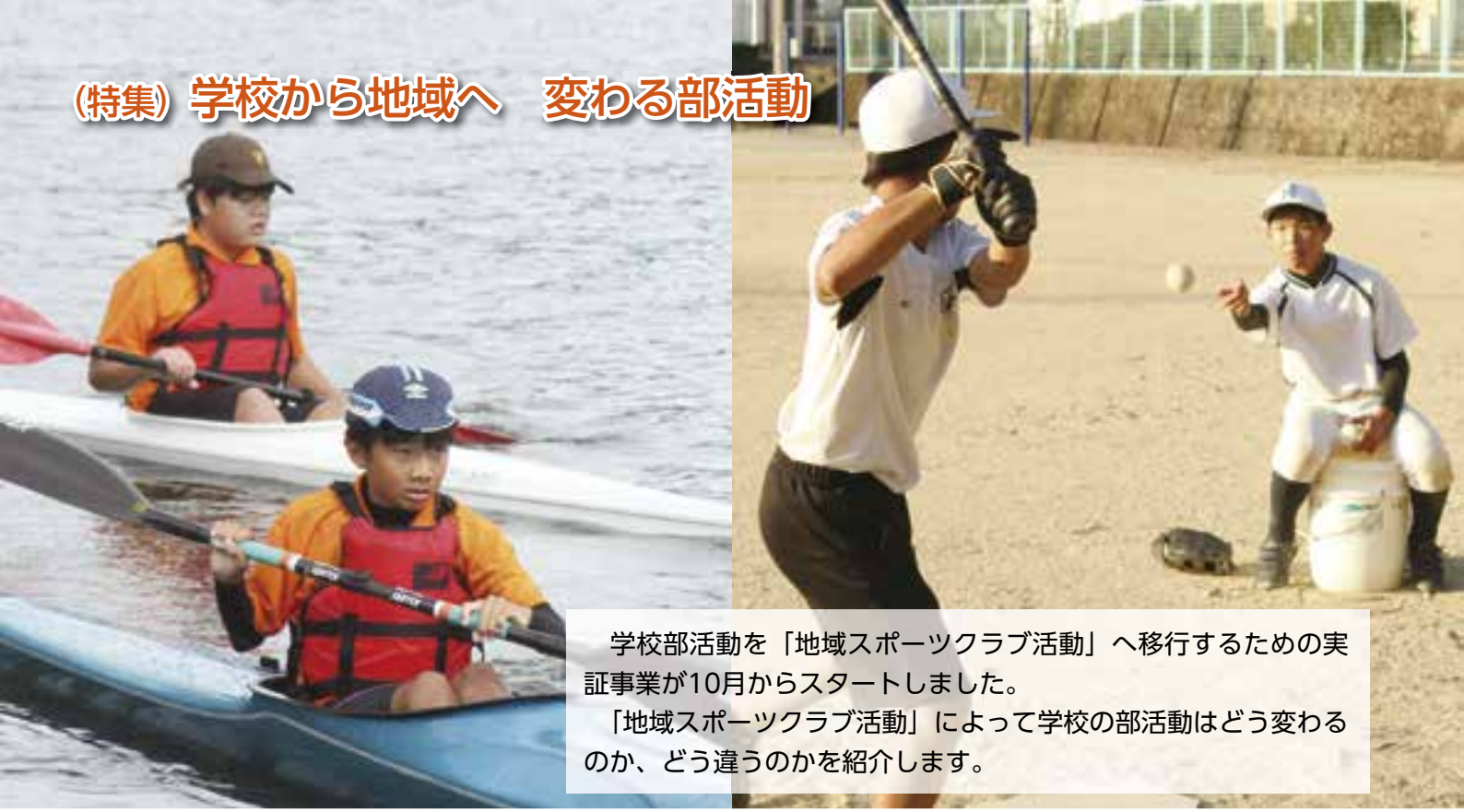
広報

みなず

2023
11
No.226

（特集）学校から地域へ　変わる部活動

（特集）学校から地域へ　変わる部活動



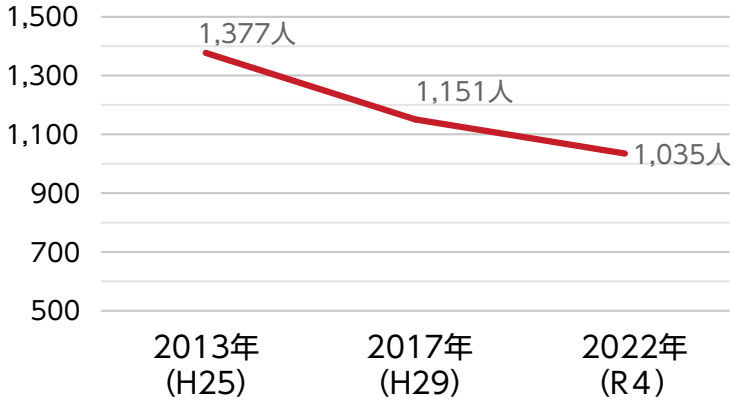
学校部活動を「地域スポーツクラブ活動」へ移行するための実証事業が10月からスタートしました。
「地域スポーツクラブ活動」によって学校の部活動はどう変わるのか、どう違うのかを紹介します。

学校部活動の抱える問題

全国で進む少子化はさまざまな影響を及ぼしていますが、学校の部活動もその一つです。生徒数の減少により部活動の種類や部員も同様に減少し「大会に出場できない」「チームプレーの練習ができない」といった問題を抱える部活動が増えています。

また、競技経験のない教職員が指導せざるを得ない状況や、休日部活動の指導など教職員の負担が学校の働き方改革を進める中で問題となっています。

大洲市内中学校生徒数の推移



学校基本調査より

大洲市の取り組み

そこで大洲市では、子供たちのスポーツ・文化芸術に親しむ環境を維持するための「部活動改革」を推進します。まずは、休日の部活動を「地域スポーツクラブ」へ移行し、持続可能な部活動となるよう環境を整備していくこととし、令和５年度は軟式野球クラブ、カヌークラブを創設し、実証を開始しています。

※カヌークラブは10月１日開始、軟式野球クラブは10月下旬開始予定

軟式野球クラブ	カヌークラブ
単独校では部の運営が困難な学校が合同クラブ活動で実施 対象校： 大洲東中、長浜中、肱川中	現在の「大洲カヌークラブ」を拠点としてどの学校からも参加できる形で実施 対象校： 大洲市内の全中学校

令和５年度は２つのクラブがスタート

今後の目指す姿

今年度を含め３年間の実証事業を踏まえて市内全域へ拡大するかなどの方針を決定します。

令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度～
・大洲市地域部活動推進協議会設置 ・実証事業スタート（軟式野球・カヌー）	・実証事業を継続 ・実証の成果や人口推移、地域性などを踏まえて大洲市の方針を決定		・決定された方針を基に地域移行を実施

大洲市地域スポーツクラブ活動（実証事業）のイメージ

実証事業では、平日は現在の学校での部活動を維持し、土日のどちらかを地域スポーツクラブ活動として、運営主体をスポーツクラブなどに移行して実施します。これによって教職員の負担軽減を図るとともに、普段の部活動では難しくなっている大人数での練習や、新しいスポーツに挑戦することができます。

活動のイメージ（令和５～７年度）

現在の部活動

あり方	学校部活動（週５日以内）
指導者	教職員
位置づけ	学校教育活動の一環
運営主体	学校単位
活動場所	各学校
運営費	原則、公費負担

移行

平日は現在のまま

＋

地域スポーツクラブ活動

あり方	土日のどちらか１日
指導者	スポーツクラブの指導者 地域の指導者
位置づけ	地域のスポーツ活動
運営主体	地域のスポーツクラブなど
活動場所	学校・地域の設備など
運営費	原則、参加者負担

子供たち＆保護者の声

実証事業が始まったカヌークラブや軟式野球クラブに参加予定の子供たちと保護者に話を聞きました。

大洲北中学校

２年　近藤 裕輝（ゆうき） さん

普段は学校の美術部に所属していますが、友達に誘われてカヌークラブに体験参加してみたそうです。

「初めてカヌーを漕いだのでパドルの扱いが難しかったです。でも想像以上に楽しかったので、また参加してみたいです。」

肱川中学校 軟式野球部

２年　岡本 悠斗（ゆうと） さん（左）　樽川 隼斗（はやと） さん（右）

ダブルキャプテンを務め、また投手と捕手のバッテリーでもある２人。

「地域クラブでは他校の人とコミュニケーションがとれるかどうか心配だけど、連携プレーや実戦的な練習ができるので嬉しいです。」

大洲東中学校 軟式野球部

２年　菊地 海翔（かいと） さん

「肱川中学校の人たちとは練習試合でも合同チームを組んでいて、すぐ仲良くなれました。長浜中学校のみんなとも一緒になれば、紅白戦など練習に活気が出ると思います。」

大洲東中キャプテンとして、クラブでもみんなを引っ張ってくれそうです。

大洲カヌークラブ

保護者　西田 憲二（けんじ） さん

「少子化の中でも、子供たちが多様なスポーツ文化活動を選択できるようになるのは大変いいことだと思います。保護者にとっては、費用や送迎などの負担が増えるかもしれませんが、子供たちにとって地域クラブ活動が『いつでも、だれでも、楽しく参加できる』ものになるよう協力していきたいです。」

【問い合わせ先】大洲市教育委員会 文化スポーツ課　☎0893(24)1734

世界に触れた４日間
大洲市中学校海外派遣事業 IN TGG

国際化時代にふさわしい人材を育成しようと、大洲市では(公財)桝山教育振興会の協力を得て、「大洲市中学生海外派遣事業」を実施しています。今年度も昨年に引き続いて国内での開催とし、東京都江東区にある体験型英語研修施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY」(TGG)で市内中学７校から参加した３年生23名が７月31日㈪から８月３日㈭の４日間を過ごしました。

国内イングリッシュキャンプと称したこの事業で、数々のプログラムをこなしながら貴重な経験を積んだ子供たちの感想を紹介します。

肱東中学校　３年　栗田　蒼波（そうは）

終わってみると４日間はあっという間でした。英語の大切さや会話ができたときのうれしさを感じることができ、今まで以上に英語への興味や関心が高まりました。

今後、英会話の能力を今まで以上に求められる時代になるだろうし、日本にいても英語を使う機会は増えてくると思います。この派遣事業は、これからの僕にとっても大きな体験になったので、これを機に英語力を磨いていきたいです。

平野中学校　３年　西村　咲那（えなん）

私は英語があまり得意ではなく、特に話すことに苦手意識を持っていました。しかし、今回の派遣事業で外国の人やグループのメンバーと活動していくうちに、自分が言いたいことを英語で伝えることができる楽しさに気づきました。英語を話す力だけでなく、コミュニケーションにおいても、自分の成長を感じることができました。４日間、ＴＧＧで過ごしたことは学校だけでは得られない貴重な体験で、この経験から日本についての勉強だけでなく海外のさまざまな文化や歴史についても学びたいと思うようになりました。

大洲南中学校　３年　白石　智哉（ともや）

多くのことを学びましたが、その中でもコミュケーション能力の大切さに気づきました。他校の人と話す機会がたくさんありましたが、とてもフレンドリーに話しかけてくれる人がいてすぐに仲良くなりました。会話が弾みお互いのことを深く知ることができたのは、しっかりコミュニケーションがとれたおかげです。

そのため、みなとみらいでのフィールドワークでは、講師や同じ班の人とも積極的に話し、助け合って課題をクリアしていきました。結果は負けでしたが、チーム一丸となれた時間はとても楽しく面白いものとなりました。この研修で学んだことを忘れず心に刻んで頑張りたいです。

長浜中学校　３年　岡崎　多聞（たもん）

僕は将来、海外で働きたいと考えています。そのために必要な英会話の能力を向上させること、他校の生徒と一緒に学べることに魅力を感じてこの派遣事業に参加しました。英語でショッピングをするというプログラムでは、最初は焦ってミスばかりしていましたが、失敗を恐れず何度もトライすることで、最終的にはスラスラと英語で欲しい物を買うことができました。このことは今までの自分では考えられなかったので、とてもうれしく自信も湧いてきました。プログラムをこなしていくうちにチームの絆も深まり、多くの友達もできました。もし、もう一度機会があれば、ぜひ参加したいと思える充実した３泊４日でした。

大洲北中学校　３年　宇都宮　和花（のどか）

この活動ひとつひとつが自分の中でとても貴重な体験になったと思います。また、研修施設では飛行機やレストランがそっくりに再現されていて本当に海外にいるような感覚になりました。

フィールドワークではミッションをクリアするためにどうやって会話していこうか悩みましたが、講師が気さくに話しかけてくれて楽しくクリアしていくことができました。

海外派遣事業を終えて、私は人と積極的に話してコミュニケーションをとろうとする姿勢の重要性を学びました。完璧な英会話は難しいけど、単語やジェスチャーを使いながら頑張れば分かり合えることができたので、最初から「話せない」「無理だ」と諦めるのではなく、話そうとする姿勢を見せることで「あなたと仲良くなりたい」という気持ちを相手に理解してもらうことが大事なんだと感じました。